

甲府市立新田小学校

学校だより

しんでん

令和3年 9月24日 発行

No. R3 学力テスト  
特集号

編集・発行 小山田 貴一

## 【令和3年度 全国学力・学習状況調査結果分析】

### 【全国学力・学習状況調査の目的】

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
  - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 以上の3点の目的のもと、本年度は、5月27日（木）に全国の小学校6年生、中学3年生を対象に実施し、本校の6年生14名も行いました。調査内容は、次のとおりです。

### 【教科に関する調査内容】・・・国語，算数

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等。

### 【質問調査内容】

- ・調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

### 【本校の学力・学習状況調査の結果について】

#### ① 全国・山梨県の平均正答率との比較

	本校の平均正答率
国 語	県をやや下回る
	全国を下回る
算 数	県をやや下回る
	全国を下回る



※国語も算数も全体的に山梨県、全国の平均よりも下回る結果となりました。

#### ② 問題別にみる本校における各教科の課題

※問題別とは以下の観点において分類された問題形式になります。

選択式	記号を選び解答するもの
短答式	本文中からの抜き出しや書き換え、数値、数式などを単語や比較的短い文章によって解答するもの
記述式	答えの求め方や考え方、解釈や評価などを文章で解答するもの

- ・国語も算数も選択式の問題は山梨県とほぼ同等の結果となりました。
- ・全国、山梨県でも同じ課題となりますが、「記述式」の問題の正答率が低かったです。これは、国語、算数両教科に通じていえることですが「図形や資料、文章などを読み解き、必要な情報を集め、自分の考えを文章にまとめ説明する」また、「それを文章化することが不得意である」ことが読み取れます。学習指導要領の内容でいうところの「思考力・判断力・表現力」がウィークポイントであることが明らかになりました。

#### ③ 学習指導要領の内容・領域にみる本校の各教科の課題


- ・国語においては「話すこと・聞くこと」「目的の応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」「資料を用いた目的を理解する」「目的や意図に応じ、資料を使って話す」などの出題の趣旨の正答率が、山梨県、全国の平均を大きく下回る結果となりました。
- ・算数においては変化と関係に関する問題、「速さ・時間・道のり」の回答率が、山梨県、全国の平均を大きく下回る結果となりました。
- ・算数の「数と計算」「測定」では、山梨県とほぼ同等でした。

【学力向上に関わる実践的な取組について】

②③の結果を受けて、学力の向上のために次の3点について重点的に取り組んでいくこととします。

- ・小学校における基礎的な学習の徹底（理解と納得の指導）。
- ・基礎的な学習で身につけたものを生かし、それらを活用して問題を解決していく課題の設定。
- ・対話的な学習を意図的に仕組んだ授業構成。

【質問紙調査の主な特徴と改善に向けて】

県や全国の結果より上回っていた質問	県や全国の結果より下回っていた質問
「将来の夢や目標を持っていますか」	「自分には、よいところがあると思いますか」
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」	「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」
「学校に行くのは楽しいと思いますか」	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」
「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」	「学校が休みの日に1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」
「人が困っているときは、進んで助けていますか」	
「友達と協力するのは楽しいと思いますか」	
「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思いますか。」	
「国語・算数の授業は大切だと思いますか。」	

※上記の表は、特に顕著なものだけを抜粋しています。

児童の意識の中で「国語や算数などが大切である」という意識が高いことがうかがえますが、それが家庭や学校での学習意欲に結びつくよう「何のために学ぶのか」「学んだことをどう生かすのか」という視点を指導者が明確にもち、指導計画を立てていくことが大切であると考えます。

「自分には、よいところがあると思いますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」などの質問に対しての結果が県や全国よりも下回っているのは自己肯定感が低いことが推察されます。しかし、対人関係における回答からは「いじめを許さない心」「困っている人を助ける心」「友達を大切に作る心」など、道徳心が県や全国の回答よりも大きく上回っています。また、全国的に不登校児童生徒が増え続けている中、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対する回答が県や全国を大きく上回っていることは特筆すべきことです。**本校の児童は、人の気持ち**  
**がわかる心優しい子供たちである**ことが本調査により明確になりました。

失敗を恐れず、様々なことに挑戦できる気持ちをもつことができるよう、日常の学校生活、行事等を通して子供たちに挑戦の場を与え、成功体験を積み重ねられるような指導を心がけていくことが自己肯定感の向上へつなげると考えます。